|  |
| --- |
| **開催セミナー** |
| 第72回　農楽マッチ勉強会 |
| **日時** | 2019年1月27日(日)13:30~16:40 | **場所** | 龍谷大学　深草キャンパス和顔館　B101教室 |
| **講演者** |
| 京都府農業会議理事　安本洋一氏　　　　　㈱小林ファーム　小林伸輔氏、小林加奈子氏㈱村田農園代表取締役　村田正巳氏　　　　ファームガーデン空詩土代表　野村加奈子氏 |
| **タイトル** | 「若手が夢をもてる農業とは！」を考えるシンポジウム |
| **内容** | ・安本洋一氏　　京都農業会議の事業部構成や主な事務分担のお話から始まり、京都の農業の実情のお話をしていただきました。都市近郊では、農地不足が問題になっているが、農地を北部に広げるにしても、人材不足が問題としてある。これからより農業・農村人材の育成に力を入れていくこと。女性も気兼ねなく働けるように子供の面倒をみられる仕組み作りにも力を入れていく必要があるなどのお話を聞かせていただきました。現場と行政の狭間で動かれている方の視点からのお話が聞けて、僕の地元能勢町近郊での問題とも照らし合わせられる部分がありました。・小林伸輔氏、加奈子氏　　お話は伸輔氏がされました。お二人は元々大阪府堺市で学習塾を経営されていましたが、予てからの「いつか農業に関わりたい」という思いを2015年に福知山にて実現されました。福知山で食べたキュウリが美味しかったことが福知山でするきっかけとなったそうです。2018年に㈱小林ファームを創立され、それまで2反だった農地が一気に40反に拡大され、トマトとお米がメインで、更にはトマトジュースなどの加工品作りも行われています。安心安全でおいしいものを作るのは当たり前。力を入れているのはブランディングだそうです。トマトジュースは高島屋やフィアットなどで取り扱われています。展示会にも積極的に参加され、現場での意見交換を大事にされていました。40反という広大な農地を持たれているにも関わらず、見学も歓迎されていたり、トマト農家さんのフランチャイズに取り組まれたり、とてもアグレッシブな農家さんでした。新規就農の初心者向けの話から、上級者向けの話までを短時間でして頂きました。そして、何よりも農業が好きで、農業は楽しくやらなくては！と目をキラキラさせながらお話をされていたのが印象的でした。・村田正巳氏　　先代から続いている農家を継がれることになった村田農園4代目村田正巳さんは、最初は中々スイッチが入らずだったらしいです。それでもがむしゃらに取り組み1億円の売上を挙げられていたそうです。ただ、それではダメだということで、家族経営から法人経営に転向され、苦手な数字の克服に取り組み、コスト管理、データ管理、農業クラウドの導入の検討もさるなど、しっかり全体を見た経営に取り組まれています。先代から続いている伝統ある京野菜を守り、後世に伝えるのも使命とされておられますが、生産だけでなく、売り先、人(従業員)のすべてに重点を置く、バランスをとても大事にされています。守るだけでなく、農地拡大やより価値ある京野菜作りなど日々チャレンジされている熱い農家さんでした。・野村加奈子氏　東京農大在学時に北海道でブルーベリーに興味を持ち、卒業後、丹後の方で国営農地を借り、今では1600本のブルーベリーを栽培されています。また、加工品も作って、地元の洋菓子店などに卸されている。地元の洋菓子店も地元で採れた美味しいものを使って作ったものを作りたいという思いを持たれていました。いいやり方をしれば、まず試してみる！と探究心がすごい方です。加工品や栽培だけでなく、摘み取り園もされています。入園料は取らず、計り売りのスタイルを取られています。加奈子氏はターゲットを地元の方に向けれており、摘み取りも地元近くの方々にリピーターで来てもらおう！ということで取り組まれています。地元の人が納得するもの、地元の人が受け入れてくれるというのは田舎で業をする上でとても大事なことだと思います。**パネルディスカッション・質疑応答**法人化にするメリットは何か？無農薬、無化学肥料での病害虫対策は？など質問に対して、一つ一つ丁寧に答えられえていました。そして、何よりも印象的なのがパネラーの皆様がキラキラされており、農業が楽しいんだ！という気持ちがひしひしと伝わってきました。参加されていた大学生の方が感動して、涙を堪えながら、私もみなさんみたいなきらきらした大人になりたいです！と農家が人の人生に影響、夢を与えた瞬間を目にすることができました。 |
| **文責** | 元古隆博 |  |